

文部省選定 1994年度文化庁優秀映画作品賞 1995年教育映画祭優秀作品賞 1994年度毎日映画コンクール記録文化映画賞  
優秀映画鑑賞会推薦 日本映画ペンクラブ推薦  
1994年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第3位

「見る人たちの、心が洗われるような作品をつくりたい。」  
映画は、「色絵磁器（いろえじき）」の重要無形文化財保持者（人間国宝）である十三代今泉今右衛門（いまいずみいませもん）の陶芸家としての人間形成と作品の制作工程を軸に展開する。  
色鍋島（いろなべしま）の伝統技法に基づきながら、新しい独自の色絵磁器を目指して創作する十三代の姿を描く。



肥前（佐賀県）有田は日本の色絵磁器発祥の地。十三代今泉今右衛門の窯は、有田の赤絵町にある。有田町は一本の細長い街道沿いにあり、両側にはたくさんの陶磁器店（窯元）が並んでいる。17世紀のはじめから現代に至る四百年近い歳月、有田は焼きものの町として、長い歴史と伝統の中に生きてきた。十三代の色絵磁器の仕事も、その有田の歴史と伝統の中に生まれてきた。

映画は、色絵磁器「色鍋島」の窯元に生まれ、いずれは家業を継ぐ運命を背負った十三代の、自分らしい色絵磁器を目指す創作の努力を描いている。父の十二代も、祖父の十一代も、曾祖父の十代も、時代の厳しい変化の中で、それぞれに伝統の革新を企ててきた。

十三代も色鍋島の伝統技術の継承と、作家としての創作との狭間で大いに悩む。その作陶は、伝統の否定ではなく、伝統の中に新しさを発見していく軌跡でもある。生い立ち、青春とともに、自らが開発した「吹墨（ふきずみ）」、「薄墨（うすずみ）」、「吹重（ふきがさね）」という新しい色絵磁器の創作過程も具体的に描いた。

## 記録

フィルム  
カラー／36分  
日・英・仏・独・伊・  
葡・西・中・アラビア・  
タイ・インドネシア語版

- 企画  
（財）ポーラ伝統文化  
振興財団
- 監修  
南 邦男（工芸評論  
家）
- 協力  
東京国立近代美術館  
法隆寺  
東大寺  
中宮寺  
有田町歴史民俗資料  
館  
色鍋島今右衛門技術  
保存会  
大八木信昭  
小川光三（写真）

## スタッフ

- 製作  
村山和雄
- 脚本・演出  
村山正実
- 撮影  
村山和雄  
山屋恵司
- 撮影助手  
今野聖輝  
松井美喜夫
- 照明  
水村富雄
- 録音  
堀内戦治
- 選曲  
山崎 宏
- 編集  
吉田栄子
- ネガ編集  
加納宗子
- 現像  
IMAGICA
- 解説  
白坂道子